

早いもので2月を迎えました。今年の冬は暖冬と言われ、比較的毎年積雪が多い所でも、全く降らなかったり降っても僅かだったり、スキー愛好家等積雪を心待ちにしている人たち

は、とても落胆されておられるのではないのでしょうか。また、暖冬と言えども冬場の代名詞と言えるインフルエンザが1月に入って全国的に流行しつつあり、宇治管内の小学校や幼稚園でも学級閉鎖している所もあり、当園でも数名の保育者や子どもたちが罹患している状況です。これから一層広がる恐れもあり、衛生管理対策として、子どもたちや保育者は勿論のこと、園全体で手洗いやうがいの励行に務めていきたいと考えています。又新型コロナウイルスが中国武漢を起点として、全世界に拡散し日本でも現在4名の罹患者が出ていると報道されています。一日も早くコロナウィルスが消滅することを願うばかりです。

さていよいよ2月8日に幼児クラス(3歳~5歳児)の生活発表会を開催予定していますが、インフルエンザの流行状況が懸念されるところです。先月末に第1回目のリハーサルを行いました。日々のクラスでの遊びや活動の中で発達に躓きがみられるお友だちも、各々個性を輝かせて仲間の子どもたちと一緒に、生き生きと発表している姿は本当に素晴らしいの一言に尽き、感動したことを今も深く心に残っています。子どもたちの成長や発達していく姿を目の当たりにして改めて実感することは、私たち大人(保育者)は、子どもと向き合うときある種の先入観で、「これはこの子にとって難しいだろう! 苦手できないだろう!」等、子どもの負の側面をついつい見てしまうことが少なくありません。関わり方によっては「できる」かもしれない! 今はできないけれどこれから先、いつか「できる」かもしれない! というような長期的に前向きに子どもを捉え、子どもの可能性を信じるのが何よりも大切なことであると考えます。そのことが子ども自らの持っている発達を促し子どものよりよい成長に繋がっていくのではないのでしょうか!

子どもたちの健やかな成長を切に願います。